**1　問題の所在と研究目的**

1989年の高等学校学習指導要領で告知された男女共修家庭科の実施までは、いわゆる38改訂（1963年）以降、家庭科は女子のみ履修であった。ただし、それ以前に、京都府下の教師たちが、家庭科男女共修の実践に取り組んだプロセスは、高野ら（2010）によって明らかにされている。

ほぼ同時期の1970年代には…（例文）

１　形式

・この例文は、以下のように設定されています。

上下20ミリ・左右60ミリの余白

文字ポイント10.5

22字×40行（この原稿２枚で刷りあがり１ページに相当）

２　図・表の挿入箇所

・図表の挿入箇所については、このファイルの中に、ゴチック・下線つき・赤で前後１行あけて示してください。

・ただし、組版をした結果、スペースの関係上、希望と異なる場合もありますので、校正の段階で修正を依頼してください。

　例

・・・についての質問紙調査の結果を表１に示す。

　　　　表１挿入

表１が示すように、小学校・中学校・高校の家庭科教師に持ち時間は各県の実情が異なっていることがわかる。

３　引用文献の書き方

・引用文献の書き方については、54巻１号（2011

年４月１日発刊）またはHPにアップされているので、必ず、その方式に従ってください。

学会誌に関するHP

<http://www.jahee.jp/syupan.html>

執筆要項のPDF

<http://www.jahee.jp/toukou_pdf/shippitu_youkou.pdf>

その一部を示します。

2. 本文の中で文献を引用・参照する場合には、該

当箇所に、(著者名〔姓のみ、連名の場合２名まではその２名の姓を、３名以上の場合は筆頭者名他と記載〕、西暦発行年、引用頁あるいは参照頁）を、本文中に著者名がある場合は、その著者名に続けて、（西暦発行年、引用頁あるいは参照頁）を記す。引用頁あるいは参照頁は省略される場合もある。

3 「引用文献」または「参照文献」は、本文の最

後に一括して記載する。

4. 「引用文献」または「参照文献」の配列は、筆

頭著者名（姓）のアルファベット順とする。その際、同一著者の場合は年号順に、さらに同一著者で同一発行年の文献が複数ある場合は、年号の後にa,b …とつけて(1995a)(1995b)のように区別する。

5. 文献の記載方法は以下の通り。

1) 雑誌の場合は、著者名・刊行年・論文題・雑誌

名・巻号・ページの順とする。著者名の後にピ

リオド、刊行年は西暦で（　）でくくりピリオド、論文題の後にピリオド（副題がある場合はコロンの後に書いた後にピリオド）、雑誌名の後にコンマ、巻と号は半角で号は（　）でくくりコンマ、ページはpやppはつけず半角で、半角のハイフンではさみ、最後にピリオドをうつ。

例） 松田喜美子.(1965).現代児童の父母観の実態

とそれからみた家族関係の診断:家庭科内容編

成の基礎として.日本家庭科教育学誌,54(2),

74-82.